萩原　廣　広報特別委員長が市長室にて
初代中田市長にインタビューを行いました。

初代市長に聞く

○委員長

市長に三点ほどお伺いいたします。まず始めに地場産業の育成と支援はどのようにするのか。

○市長

桜川市の地場産業は石材業と農業があります。

石材業については、景気の低迷が長期化していますが、新分野への進出を視野に入れながら、県内外へのＰＲの強化や販路の拡大を推進していくことが大切だと思います。さらに、産地間競争に勝ち得るために「匠の技」を駆使し、伝統工芸品等のブランド化を高めていく必要もあります。

現在、第三次石材振興計画を策定中であります。

また、農業の振興策については、恵まれた自然や土地条件を活かし、生産基盤の整備、担い手の育成、農業生産物の価値を高めていくことなどが必要で、消費者の立場になり安心、安全の農産物を提供できるよう生産者の皆さんと話し合いを進めながら組織の見直しを考えていきたいと思います。

萩原委員長（向かって右）が中田市長の考えを聞いた。

○委員長

つぎに子育てを安心してできる体制を市はどのようにしていくのか。

○市長

実際、昨年より日本の人口が減少しています。合計特殊出生率は全国平均で一・二九を記録しました。桜川市では岩瀬地区は一・五三、真壁地区一・四五、大和地区一・五〇、茨城県の平均では一・三八となっています。

核家族や女性の社会進出が進んでいるなかで、子供を生み育てる環境は大きく変化している状況ですので、地域全体で子育てをしていくことを議論し、政策の中でも訴えていくことが重要と考えます。

市としては、児童の安全、健全育成のために学校の授業終了後の学童保育を実施していますが、四月から雨引小でも開設する準備を進めております。

また、登下校の際の問題についても、関係機関といろいろ協議をしていきたいと考えています。

育児への不安解消については、児童相談や健康診査等の更なる推進をしていきたいと思います。

○委員長

最後に「日本一きれいなまちづくり」を目指すために今後の取り組みはどのようにしていくのか。

○市長

観光行政に市民の皆様が力を入れているという面もありまして、年々、観光客が増えております。他から来訪してくださる皆さんに桜川市はきれいなまちだなと思っていただけるようなまちづくりをしていきます。

そのため、市職員が率先し、一人ひとりが自分の住んでいるところをきれいにする運動を展開しています。市民の皆さんがみんなできれいなまちづくりを推進していくことで、子供たちも、そこに住む人たちの心もきれいになっていくと思います。

議会議員の皆様にもご協力をいただき、みんなできれいにしていくことが、私の夢でもあり理想でもあります。「日本一きれいなまちづくりをしましょう」と声を大にしていきたいと思います。

○委員長

今日はお忙しいなかありがとうございました。